

洲本教会創立120周年記念礼拝

2023年10月15日（日）

題 「イエスと信仰者たちを胸に」

テキスト：ヘブライ人への手紙12章1～3節

本日は皆様と共に、洲本教会創立120周年記念礼拝を捧げることができずことを心より感謝いたします。洲本教会は、1903年（明治36年）10月19日に設立され、今年創立120周年を迎えます。長い歴史の中で、多くの宣教師の方々、教職と信徒の方々、長く教会に仕えて来てくださった方々が神さまに導かれ、洲本の町の人々の交わりの中で教会の歴史が刻まれてきたのだと思わされます。様々な喜びと試練と苦しみの中を、神の憐みと恵みの元、信仰の先達の主イエスにあって神を信じる信仰によって今日まで歩みを続けて来れたということは驚くべきことであり、何よりも感謝なことだと思います。

今日の聖書個所のヘブライ人（じん）への手紙1章に

「1:こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、」です。昨年もお伝えしましたが、洲本教会のルーツについてです。

「み翼のかげに 洲本教会100年のあゆみ」には、写真で見る100年という個所で、「淡路伝道の先駆者」として、柿原正次牧師ご夫妻の写真と、柿原牧師の後を受け淡路伝道の基礎を形づくられた河辺貞吉牧師ご夫妻の写真があります。淡路島最初の教会は宇山にある現在の日本聖公会の教会ですが、日本フリーメソジストの教会では洲本教会とルーツを共にする福良キリスト教会です。[洲本教会100年のあゆみ]によれば「最初のバプテスマ記念ヤングレン宣教師にて受洗者13名 大浜海岸にて」とあります。淡路島の伝道における宣教師の方々のお働きと労苦を思います。記念誌によると宣教草創期、2番目に宣教師として赴任されたマサイマス・クライン宣教師のお子様、ノーブル・クラインと言うお名前ですが、お墓が曲田山の教会墓地にあります。まだ幼かったたのではとお聞きしています。そして46間洲本教会に奉仕された島田季熊牧師も戦後に愛するお子さまが天に召されました。我が子を神によって遣わされた地において御元へ送るということは、想像もつかない出来事のように思います。しかし、その中で神さまの御顔を仰ぎみるということもあったのだと想像するのです。

現在の洲本教会は日本キリスト教団に属していますが、日本基督教団は戦時中、プロテスタント各教派が時の国家によってまとめられた合同教会です。洲本教会の始まりは日本フリーメソジスト教団としてスタートしたことを覚えておきたいものです。また単立教会であった時代もあります。前史を含めて、洲本教会の歴史に、私たちは、今、神さまによって加えられているのだということを、今日改めて心に思いたいものです。

また、将来の教会の姿も望みながら歩みを続けていけたらと願うのです。

78年以前の戦争の時代状況の中を歩んで来たのです。

1904年日本ロシアに宣戦布告。洲本教会は、この年の4月に先ほど述べましたヤングレン宣教師による大浜海岸での最初の受洗式が行われました。1914年、第一次大戦が起こり、以後日本は戦争の時代に突入していきます。1941年太平洋戦争開戦。そのような時代を生きて、生き抜いて来た人から見れば、今は平和な時代に見えるのだと思います。と同時に、今、世界はロシアのウクライナへの侵攻、またガザ地区を支配しているハマスのイスラエルへの攻撃、それに対するイスラエルの攻撃の可能性が大となる、不安定な時代に向かっていくようにも感じます。地球温暖化は私たちの暮らしにもいろんな影響を及ぼしてきています。

話は戻りますが、洲本教会は太平洋戦争の真ただ中を生きる事となりましたが、そのような中でも日曜日の礼拝は捧げられていたのです。ただし1945年昭和20年の教会関係の歴史については「詳細不明」と記されています。教会は当然、混乱した大変な状況だったと推測するのです。そんな中でも神への礼拝は捧げられて来たことは信徒たちの信仰の力であり、神の憐みがあったことを信じます。

苦難の中で、神さまへの叫びの祈りは捧げられて来たことと思われまます。

神さまは、いつの時代も、自分の選ばれた民の心からなる祈りの叫びを聞いてくださる方なのです。ですから信仰者たちは、牧師も信徒も共に、

2:信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。

イエスこそが、信仰の導き手なのです。それを見つめて、思い続け、従い続けるのが信徒なのです。

3:あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。

現実には、氣力を失ってしまうようなことや、疲れはててしまいそうになることもあるのだと思います。罪に負けてしまいそうになることもあるでしょう。罪とは的外れと言われます。わたしたちも時には、的を外させようとする力の前に、うずくまるしかないときもあるでしょう。そんな時こそ、

「よく考えなさい。」と聖書は私たちに語りかけています。

十字架に命を捧げられたわたしたちのイエスさまは、罪からの救いのために神がこの世に送られた救い主なのです。このイエスはわたしたちの希望の根拠であり源なのです。このイエスにある希望は永遠に変わることなく、世の終わりまで続くのです。神さまは、苦難の聖書の民を大きな愛を持って顧み導いてくださったのです。

これから先、いかに厳しい時代になっても、このイエスにある希望はなくなることはないのです。わたしたちも現実にはいろいろな事がありますが、主の恵みと歴史につながっていることを共に感謝して、心を高くあげて生きていきたいと願います。